

キリストの使徒たちが伝えたこと (12)
—使徒信条とは—
「聖徒の交わり」

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父（ちち）なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを審きたまわん。

我は聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。
アーメン。

1. はじめに

(1) 使徒信条について

- ①三位一体論を土台とした信仰告白である。
- ②キリスト論が一番強調されている。
- ③使徒たちの作品ではないが、使徒たちの教えが要約されている。
- ④洗礼式のために、また、異端との戦いのために必要となった。

(2) 今回は、最終回である。

- ①聖霊
 - ②聖なる公同の教会
 - ③聖徒の交わり
 - ④罪の赦し
 - ⑤身体のよみがえり
 - ⑥永遠の生命
- *今回は、③～⑥を取り上げる。

2. アウトライン

- (1) 聖徒の交わり
- (2) 罪の赦し

- (3) 身体のよみがえり
- (4) 永遠の生命

3. 結論

- (1) 聖書の最初を最後と確認する。

このメッセージは、聖徒の交わりについての考察である。

I. 聖徒の交わり

- 1. 「交わり」とは、「communion」である。

- ①何かを分かち合う行為、あるいは、状況のことである。
- ②聖餐式は、「The Lord's Supper」、「Holy Communion」という。
- ③聖餐式は、パンとぶどう酒を通して、イエスの犠牲を思い出すことである。

- 2. 使徒信条の中の「聖徒の交わり」とは、聖餐式以上のものである。

- (1) 過去、現在、未来の信者たちが、同じ祝福を共有することを意味する。

- ①すべての信者は、信仰と恵みによって救われる。
- ②より具体的には、「イエス・キリストにあって (in Christ)」受ける祝福を共有する。

- (2) 私たちが他の信者と共有する祝福の例

- ①罪の赦し
- ②身体のよみがえり
- ③永遠の生命

II. 罪の赦し

- 1. 使徒信条(7)で詳しく説明した。

- (1) 聖書が教える救いとは。

- ①義認(神の怒りからの解放) 過去形の救い
- ②聖化(罪の束縛からの解放) 現在進行形の救い
- ③栄化(人間性の完成) 未来形の救い

III. 身体のよみがえり

- 1. キリストの復活

- (1) 歴史的事実である。

- ①すべての福音書に記録されている。
- ②使徒の働きにも、数回出て来る。
- ③書簡にも出て来る(ロマ1:4、1コリ15:12~34、ピリ3:10、1ペテ1:3)。

(2) 初穂としての復活である。

「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました」
(1 コリ 15 : 20)

- ①キリストの復活に続く無数の復活があることを示している。
- ②信者の復活が起こることの保証である。

2. 第一の復活

「この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる」(黙 20 : 6)

(1) 教会時代の聖徒の復活

- ①教会時代の聖徒とは、教会が誕生してから(ペンテコステの日以来)、携挙が起こるまでの間に救われた聖徒たちである。
- ②携挙の時、すでに死んでいる聖徒と、地上で生きている聖徒がいる。
- ③すでに死んでいる聖徒は、復活の体によみがえる。
- ④生きている聖徒は、死を経ないで栄光の体に変えられる。
- ⑤聖句。ヨハ 14 : 1~3、1 テサ 4 : 16~17

(2) 旧約時代の聖徒の復活

- ①携挙→大患難時代(黙 6~18)→キリストの地上再臨
- ②大患難時代に多くの信者が起こされるが、そのほとんどが殉教の死を遂げる。
- ③大患難時代の聖徒たちは、キリストの地上再臨の時に復活する。
- ④旧約時代の聖徒たちも、この時に復活する。
*バプテスマのヨハネもこの中に含まれる。
- ⑤聖句。ヨブ 19 : 25~27、イザ 26 : 19、ダニ 12 : 1~2、ホセ 13 : 14。

(3) 第一の復活にあずかる者は、千年王国においてキリストとともに統治する。

3. 第二の復活

「それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた」(黙 20 : 14~15)

(1) 千年王国が終わると、白い御座の裁きがある(黙 20 : 11~14)。

- ①罪人は第二の復活を経て、その裁きを受ける。

(2) 第二の死とは、永遠の滅びである。

- ①火の池に投げ込まれる。

②「火の池」とは、地獄のことである。

IV. 永遠の生命

1. 永遠の生命の内容

(1) ギリシア語の永遠は、「アイオニオス」である。

- ①量と質を表す言葉である。
- ②永遠の生命は、時間の概念に支配されていない。
- ③時間の中に存在しながら、時間を超越している。

(2) クリスチャンは、今、永遠の生命を体験することができる。

「御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見る
ことがなく、神の怒りがその上にとどまる」(ヨハ3:36)

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを
遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのち
に移っているのです」(ヨハ5:24)

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます」
(ヨハ6:47)

- ①永遠の生命の強調点は、「今」にある。

結論

1. 創3:24

「こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、
ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。アダムとエバは、エデンの園にあった『い
のちの木』から遠ざけられた」(創3:24)

- (1) アダムとエバが罪を犯した結果、悲劇が起こった。
- (2) 私たちも、アダムにあつて罪を犯した。

2. 黙22:1~2

「御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊と
の御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があつて、
十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした」(黙22:
1~2)

- (1) 永遠の秩序(新しいエルサレム)の情景
- (2) 命の木への回復は、イエス・キリストによって与えられた。

3. 永遠の生命を得ていることをどのように確認するのか。

- (1) 福音の3要素を信じることである。